

番号	29 - 17	申請者	神経内科医長 石崎 雅俊
<p>【審査申請課題】</p> <p>ジストロフィノパチー患者の介護者における健康管理、介護用の問題に関する調査</p>			
<p>【審査課題の概要】</p> <p>研究では、ジストロフィン遺伝子異常を原因としたジストロフィノパチーであるデュシェンヌ型筋ジストロフィー (DMD; Duchenne muscular dystrophy), ベッカー型筋ジストロフィー (BMD; Becker muscular dystrophy) を対象疾患とする. 近年, DMDでは, 呼吸管理や心筋障害治療の進歩により生命予後は著しく改善し, また携帯型医療機器の普及, 在宅支援サービスの拡充などにより, 在宅療養患者は増加している. このことは, 患者のQOL向上に大きく寄与している一方, 在宅生活の長期化により, 介護者の負担増加が懸念されている. 特に介護の中心的役割を担う母親においては, 遺伝形式(X染色体連鎖性)から, 一定の割合でジストロフィン変異保有者となる可能性がある. 変異保有者は, 一部骨格筋・心筋障害を呈し, 重症心不全をきたすこともあり, 介護する上で深刻な問題である. また, 現在女性ジストロフィン症と診断され, 介護をしていない症例においても, 将来的に介護者となる可能性もある. 本調査では, ジストロフィノパチー患者の介護者, 女性ジストロフィン症患者を対象に診察, 検査, QOL調査, 介護負担調査などの健診を行い, 個々の健康管理に役立てることを目的とする.</p>			
審査結果	承認 (平成29年9月5日)		

番号	29 - 18	申請者	腫瘍内科医長 浦本 秀志
<p>【審査申請課題】</p> <p>「肺癌免疫療法におけるバイオマーカー探索のための前向き観察研究 LC-SCRUM-Japan附随研究 Immuno-Oncology Biomarker Study」</p>			
<p>【審査課題の概要】</p> <p>本研究は、肺癌におけるPD-L1の発現及び、様々な体細胞遺伝子変化について解析し、その結果と臨床病理学的因子、治療効果、予後との関係について検討することで、肺癌に対する免疫療法の新たなバイオマーカーを探索することを目的とする。</p> <p>本研究は、産学連携全国がんゲノムスクリーニング事業SCRUM-Japan (Cancer Genome Screening Project for Individualized Medicine in Japan) の中の肺癌領域の遺伝子スクリーニング組織であるLC-SCRUM-Japanにおいて実施中の下記の3つの観察研究の附随研究として実施する。</p>			
審査結果	承認 (平成29年9月5日)		